

(2) 個別水域の状況

有機汚濁の代表的な水質指標であるBOD(河川)、COD(湖沼、海域)並びに富栄養化の代表的な水質指標であるT-N、T-P(湖沼)について、環境基準の類型をあてはめている34水域(13河川21水域、3湖沼3水域、10海域10水域)における測定結果は次のとおりです。

河川

ア 江の川

水源を広島県に発する県際水域で、主に山間部を流れ江津市で日本海に注ぐ1級河川です。

環境基準は本川全域をA類型に指定しています。

川本大橋、桜江大橋、江川橋におけるBOD75%値はそれぞれ0.5、0.5、<0.5mg/lで、3地点ともA類型に適合し、県内水域では環境基準を達成しました。

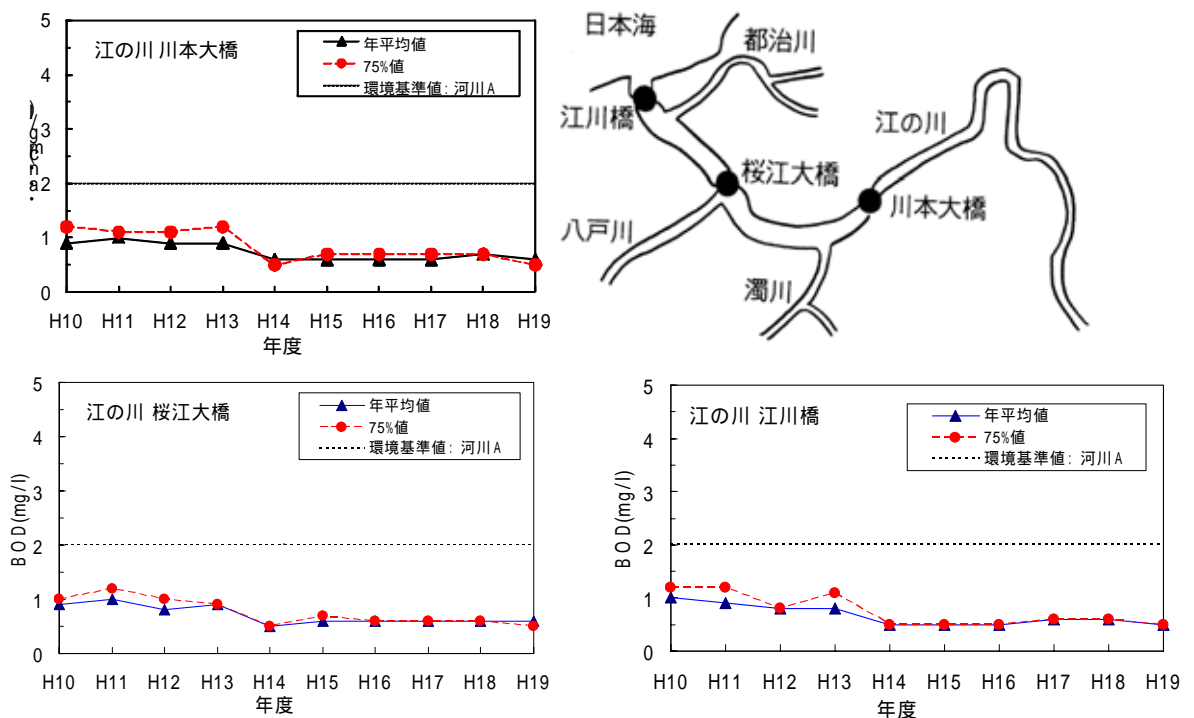
過去5ヶ年(平成14年度から平成18年度。以下同様。)の年75%値平均値(0.7、0.6、0.6mg/l)と比べると、全地点とも低い値でした(図1-1)。

平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、継続して達成しています。

BOD年平均値は、1mg/l以下で推移しており、概ね横這いもしくは低下の傾向にあります。

なお、この水域は県際水域であり、上流部には広島県域があります。

図1-1 江の川の環境基準点およびBODの経年変化



イ 斐伊川

水源を島根、鳥取の県境船通山に発し、簸川平野を貫流し宍道湖・中海を経て境水道で美保湾に注ぐ1級河川です。

環境基準は上流から宍道湖流入部までの本川をAA類型に指定しています。

里熊大橋、神立橋のBOD75%値はそれぞれ0.7、0.6mg/lで、2地点ともAA類型に適合し、環境基準を達成しました。

過去5ヶ年の年75%値平均値(0.8、0.8mg/l)と比べると2地点とも低い値でした(図1-2)。

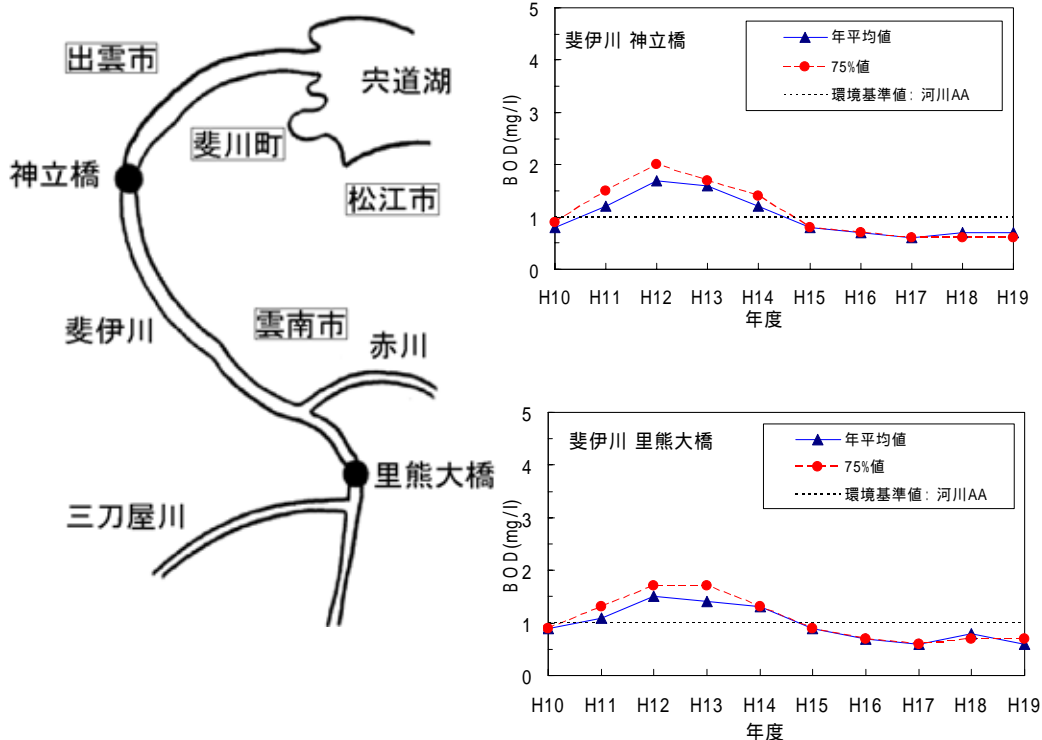
平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、平成15年度以降達成しています。

BOD年平均値は、平成12、13年度頃は1.4~1.7と高くなりましたが、その後は低下傾向を示し、平成15年度以降は継続して達成しています。

この流域では工場・事業場排水対策として、昭和51年4月には25m³/日上乗せ規制、昭和63年7月には排水基準値の強化、また、平成元年7月にみなし特定施設の上乗せ排水基準の設定、さらに、平成2年4月には湖沼法に基づく湖沼特定事業場の汚濁負荷量規制の設定等、特定事業場排水規制の強化を行っています。

また、宍道湖・中海における湖沼水質保全計画(第1期計画:平成元~5年度、第2期計画:平成6~10年度、第3期計画:平成11~15年度、第4期計画:平成16~20年度)により、下水道の普及促進、農業集落排水施設の整備、し尿処理場排水等の高度処理化等各種施策の展開が総合的に図られており、斐伊川流域一体となった水質保全を目指しています。

図1-2 斐伊川の環境基準点およびBODの経年変化



ウ 高津川

水源を広島、山口、島根の県境吉賀町田野原の一本杉の大蛇ヶ池に発し、主に郡部を流れ益田市で日本海に注ぐ一級河川です。

環境基準は下流部に位置する益田市の市街地の上流端で上流域と下流域に分け、それぞれAA類型とA類型に指定しています。

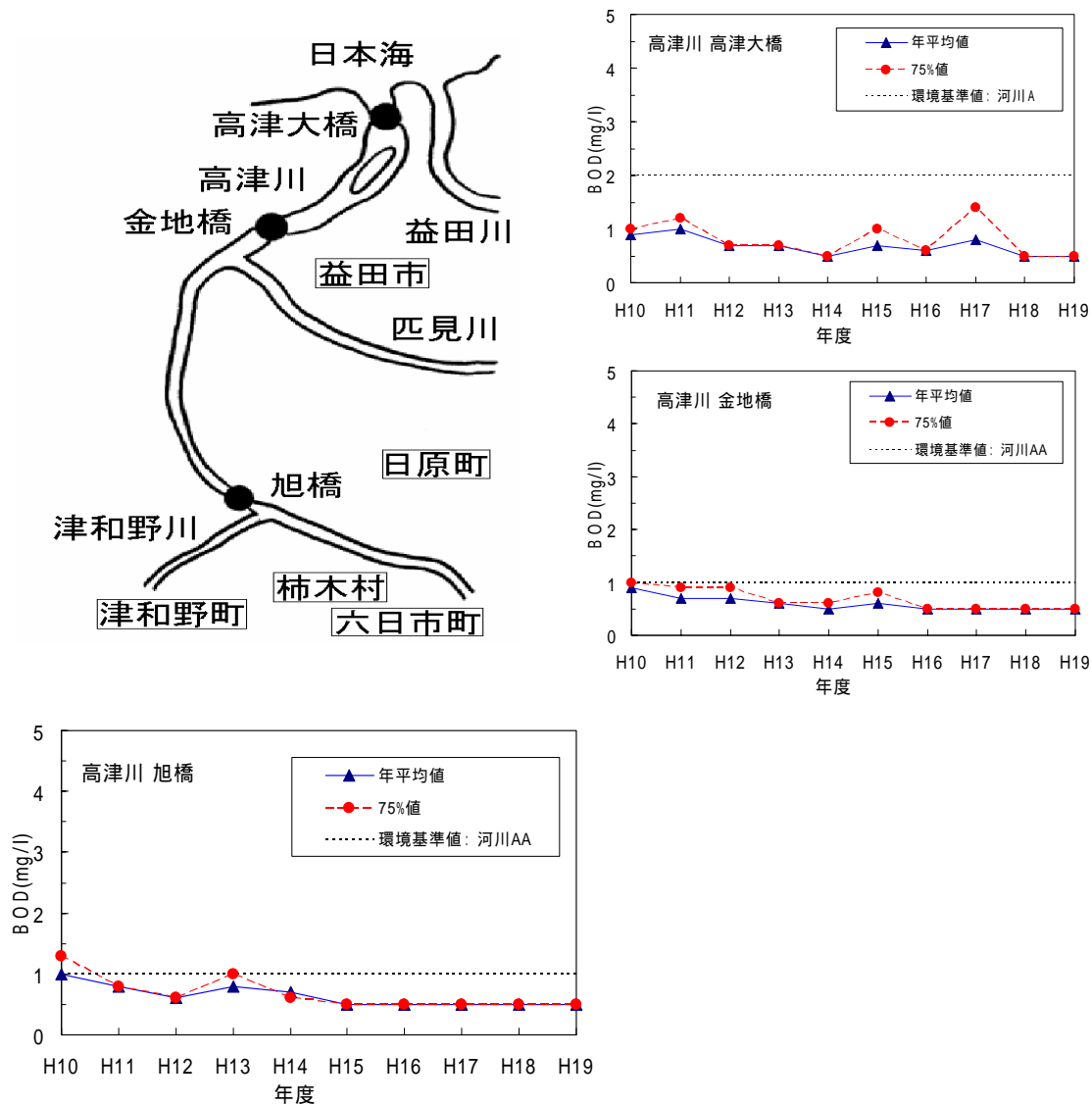
旭橋、金地橋、高津大橋におけるBOD75%値はそれぞれ0.5、

過去5ヶ年の年75%値平均値（

平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、平成10年度の上流域を除き、上・下流域とも継続して達成しています。

高津川は、豊富な水量と自然が保たれている特色もあり、全地点ともBOD年平均値が1mg/l以下で推移しており、流域全体として良好な状況にあります。

図1-3 高津川の環境基準点およびBODの経年変化



エ 神戸川

水源を中国山地赤名峠付近の女亀山に発し、主に山間部を渓谷をなして流れ、出雲市で日本海に注ぐ1級河川です。(平成18年8月1日に斐伊川水系に編入され、2級河川から1級河川となりました。)

環境基準は下流に位置する出雲市の市街地の上流端で上流域と下流域とに分け、それぞれをAA類型とA類型に指定しています。

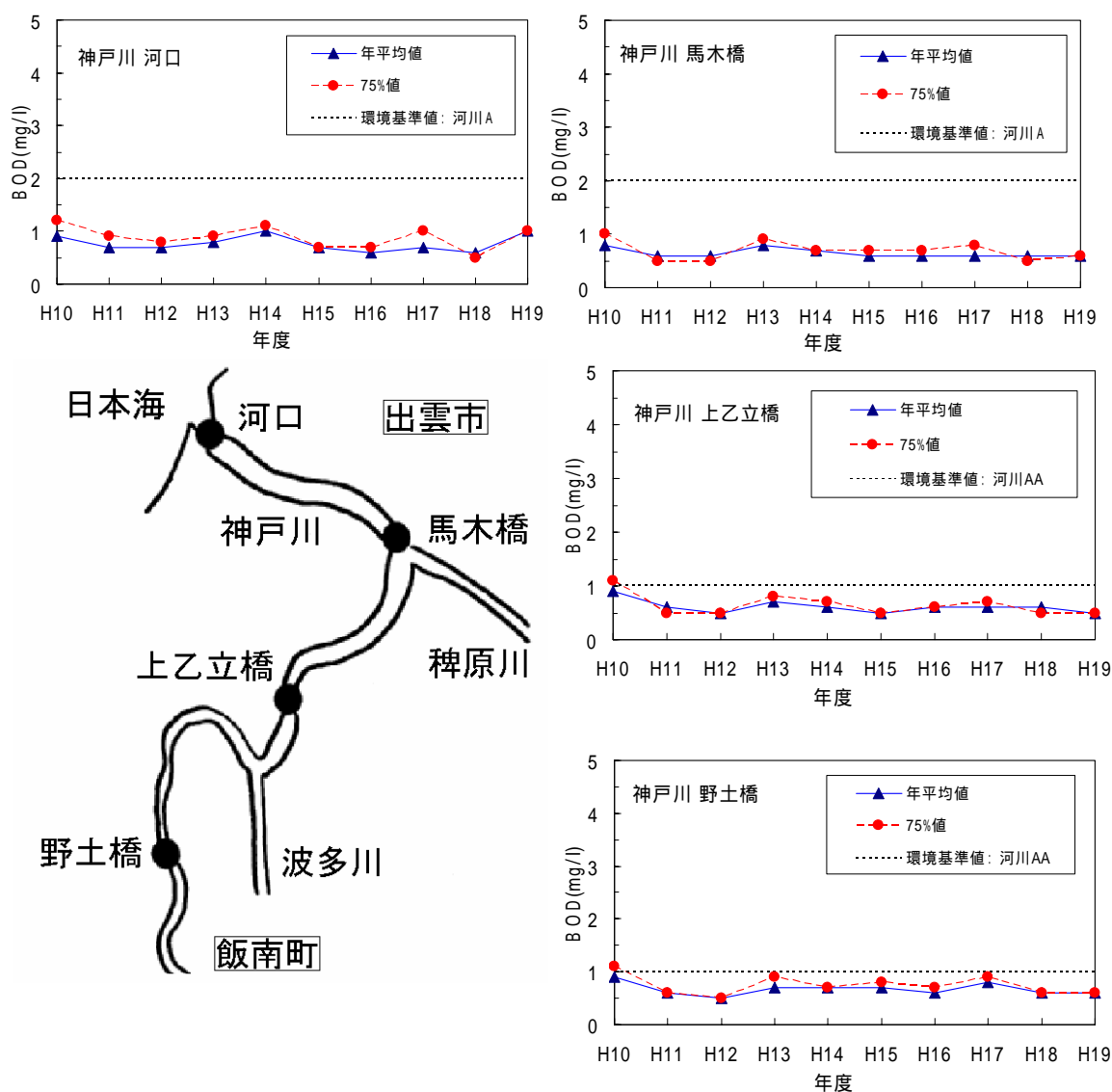
野土橋、上乙立橋、馬木橋、河口におけるBOD75%値はそれぞれ0.6、0.5、0.6、1.0mg/lで、4地点ともAA類型又はA類型に適合し、環境基準を達成しました。

過去5ヶ年の年75%値平均値(0.7、0.6、0.7、0.8mg/l)と比べると、上流域及び下流域の馬木橋では低い値でしたが、下流域の河口では高い値でした(図1-4)。

平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、平成10年度の上流域を除き、上・下流域とも継続して達成しています。

神戸川は、豊富な水量と自然が保たれている特色もあり、BOD年平均値が1mg/l以下で推移しており、流域全体として良好な状況にあります。

図1-4 神戸川の環境基準点およびBODの経年変化



オ 浜田川

水源を浜田市金城町田の原に発し、山間部を経て浜田市街地中央部を貫通し、松原湾（日本海）に注ぐ2級河川です。

環境基準は浜田市街地上流端で上流域と下流域とに分け、それぞれをAA類型とA類型に指定しています。

上流域の三宮橋、中流域の亀山橋、河口におけるBOD75%値はそれぞれ0.6、1.2、0.8mg/lで、3地点ともAA類型またはA類型に適合し、環境基準を達成しました。

過去5ヶ年の年75%値平均値(0.6、1.9、1.4mg/l)と比べると、上流域では同じ値、下流域の2地点では低い値でした。(図1-5)。

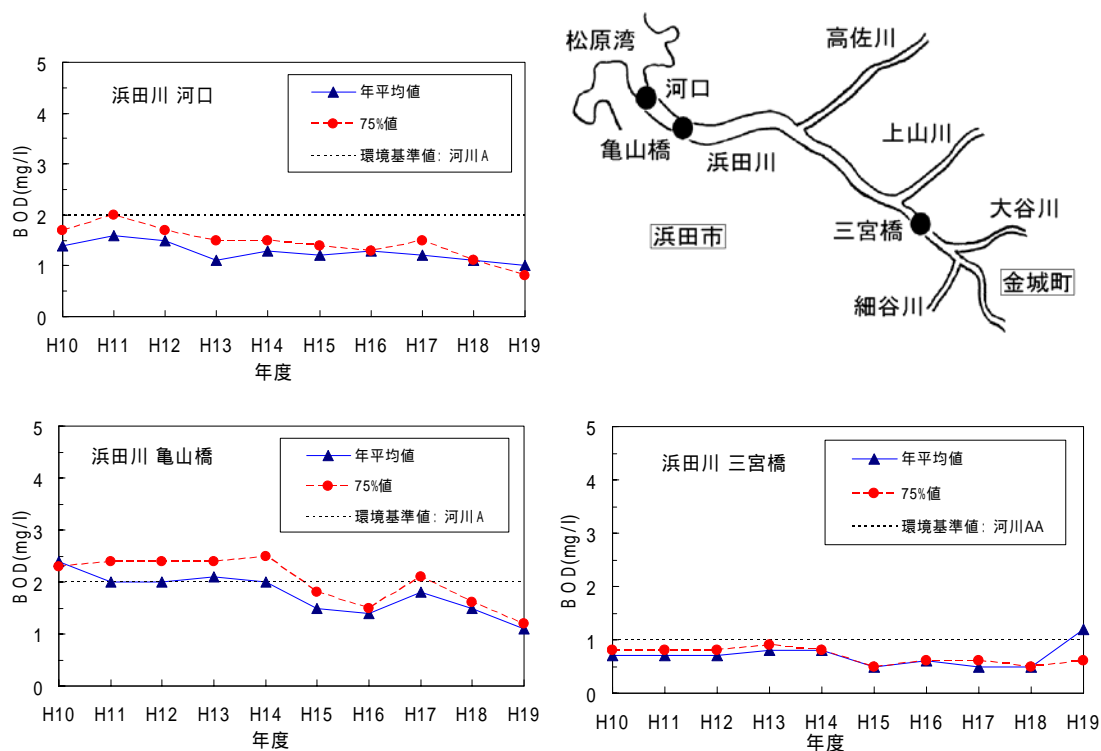
平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、上流域では継続して達成しています。

また、下流域では、平成10年度から14年度及び平成17年度は達成しませんでした。平成15、16、18、19年度は達成しています。

県は浜田川河口海域とともに平成4年3月30日に生活排水対策重点地域に指定し、浜田市では生活排水対策推進計画を定め、普及啓発事業等各種施策を進めています。

また、同水域に関連する集水域を対象に平成7年4月には工場・事業場排水対策として25 m³/日以上の上乗せ規制を行い、特定事業場排水の規制を強化しています。

図1-5 浜田川の環境基準点およびBODの経年変化



カ 益田川

水源を益田市美都町内石に発し、山間部を経て益田市街地を貫流し、日本海に注ぐ2級河川です。

環境基準は上流から益田市の市街地上端までを上流域、その下流部の益田市街地までを中流域及び最下流の河口部までを下流域として、3水域に分け、それぞれAA類型、A類型及びC類型に指定しています。

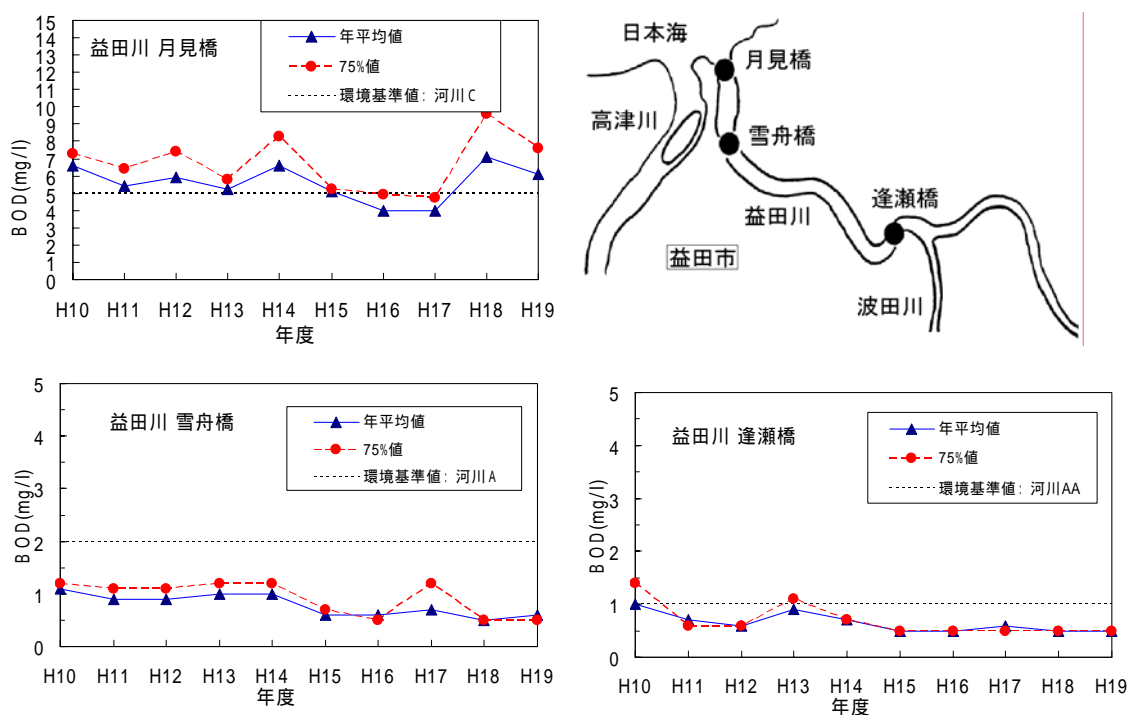
上流域の逢瀬橋、中流域の雪舟橋、下流域の月見橋におけるBOD75%値はそれぞれ<0.5、0.5、7.6mg/lで、上流域、中流域はAA類型又はA類型に適合し環境基準を達成しましたが、下流域はC類型に適合せず環境基準を達成しませんでした。

過去5ヶ年の年75%値平均値(0.5、0.8、6.5mg/l)と比べると、上流域と中流域は低い値でしたが、下流域は高い値でした。(図1-6)。

平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、上流域で平成10、13年度は達成しませんでした、平成14年度以降は継続して達成しており、中流域では継続して達成しています。

また、下流域では平成16、17年度は達成しましたが、平成18、19年度は達成しませんでした。

図1-6 益田川の環境基準点およびBODの経年変化



キ 静間川

水源を三瓶山に発し、大田市を貫流しているが下流部で大田市街地を経た支川の三瓶川が合流して、日本海に注ぐ2級河川です。

環境基準は本川全域をA類型に指定しています。

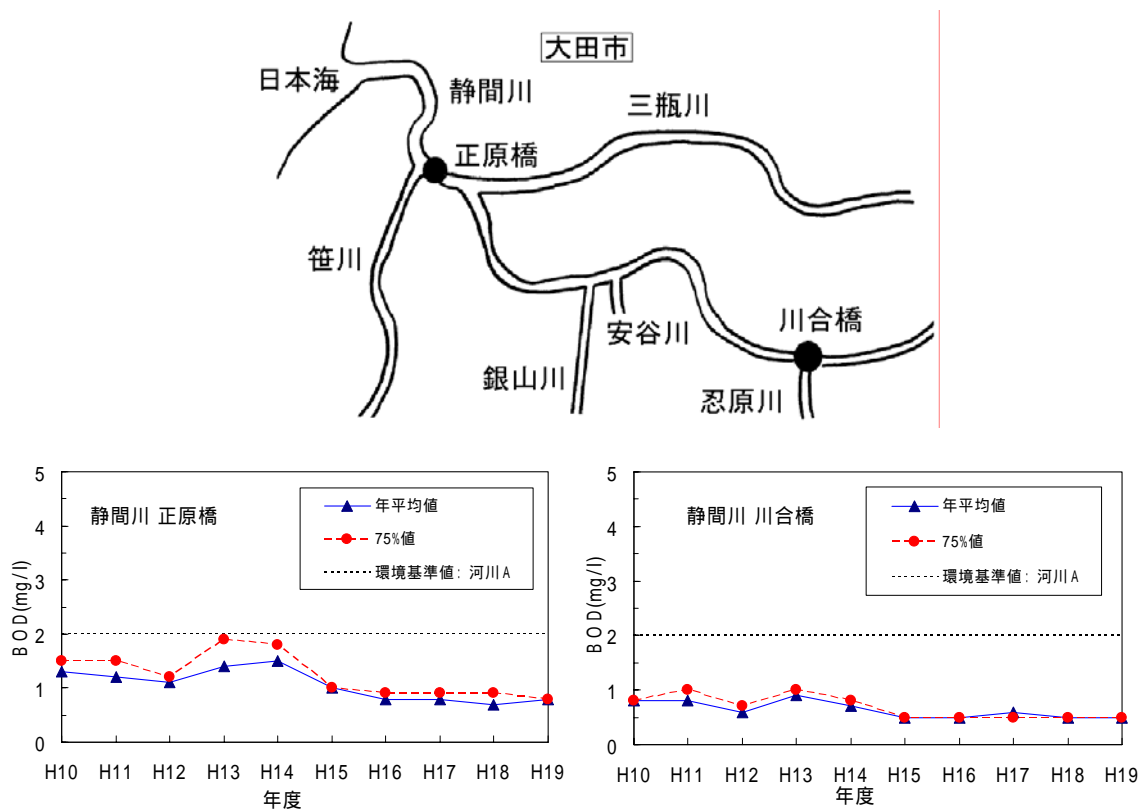
川合橋、正原橋におけるBOD75%値はそれぞれ<0.5、0.8mg/lで、2地点ともA類型に適合し、環境基準を達成しました。

過去5ヶ年の年75%値平均値(0.6、1.1mg/l)と比べると、2地点とも低い値でした(図1-7)。

平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、継続して達成しています。

BOD年平均値は、中流の川合橋では1mg/lを下回る状況で推移しており、下流の正原橋においても2mg/lを下回る良好な状況で推移しています。

図1-7 静間川の環境基準点およびBODの経年変化



ク 松江市内河川：朝酌川、山居川、馬橋川、忌部川

朝酌川全域をB類型に、山居川全域をD類型に、馬橋川全域をC類型に、忌部川上流をAA類型に、忌部川下流をA類型に指定し、平成7年度から環境基準監視を実施しています。

平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況をみると、山居川では継続して達成し、忌部川下流域では11年度以降、馬橋川では12年度以降継続して達成しています。朝酌川では平成12年度から14年度及び平成17年度は達成していませんが、その他の年度は達成しています。(図1-8)

朝酌川、山居川、馬橋川、忌部川は斐伊川水系の河川で、湖沼水質保全特別措置法で指定湖沼として指定を受けた宍道湖流域に当たることから、上乘せ排水規制や湖沼水質保全計画に基づき対策を進めています。また、県は下水道処理区を除く各河川流域を平成3年3月に生活排水対策重点地域に指定し、松江市では生活排水対策推進計画を策定し、普及啓発事業等各種施策を進めており、平成9年度には計画の見直しを行って啓発体制を強化しました。

なお、山居川、朝酌川流域比津川には、水路での直接浄化のための生活排水汚濁水路浄化施設が設置されています。

() 朝酌川

ガラガラ橋におけるBOD75%値は1.8mg/lで、B類型に適合し、環境基準を達成しました。過去5ヶ年の年75%値平均値(2.9mg/l)と比べると、低い値でした。

() 山居川

庄司橋におけるBOD75%値は2.6mg/lで、D類型に適合し、環境基準を達成しました。過去5ヶ年の年75%値平均値(3.0mg/l)と比べると、低い値でした。

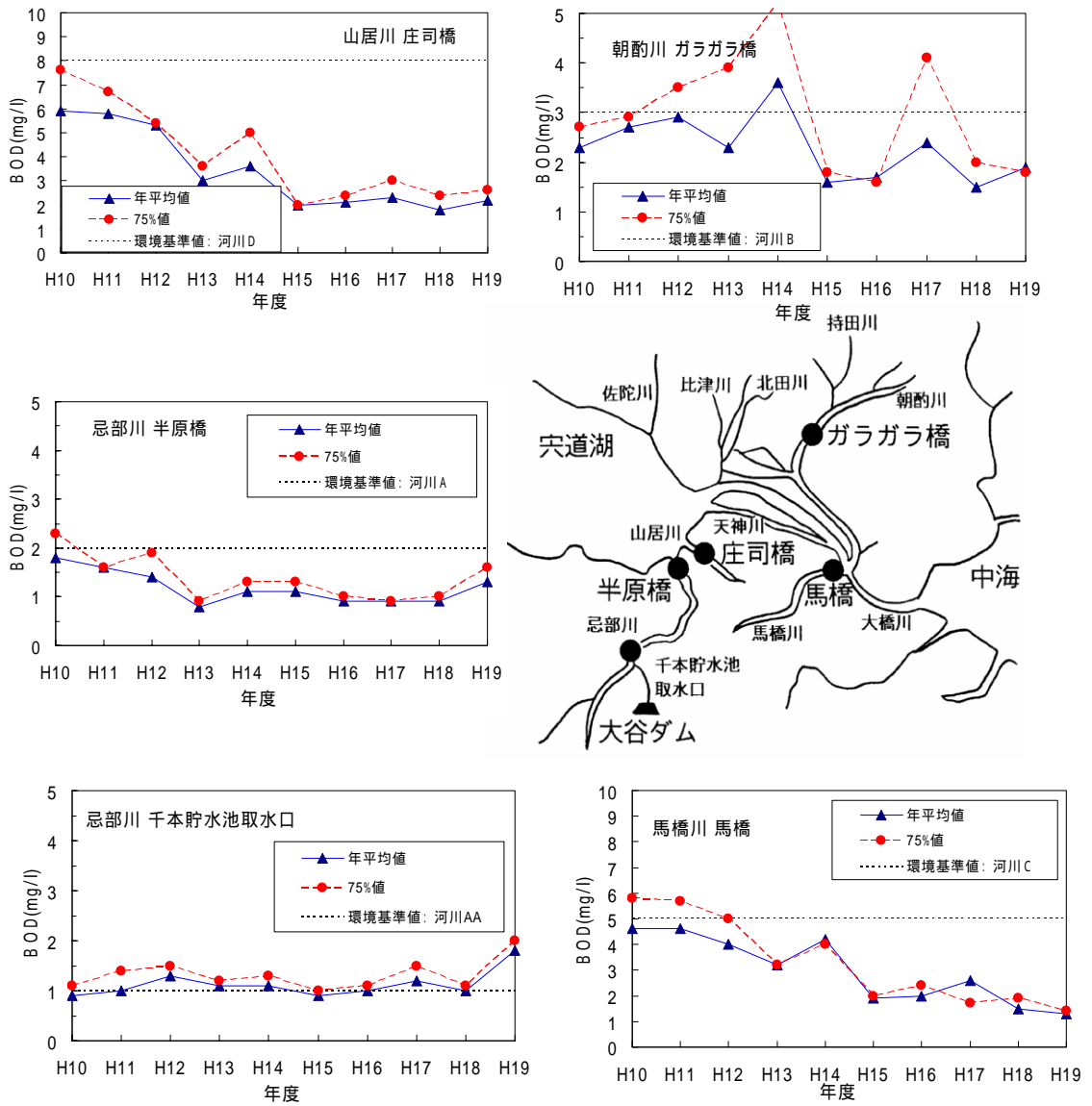
() 馬橋川

馬橋におけるBOD75%値は1.4mg/lで、C類型に適合し、環境基準を達成しました。過去5ヶ年の年75%値平均値(2.4mg/l)と比べると、低い値でした。

() 忌部川

千本貯水池取水口、半原橋におけるBOD75%値は、それぞれ2.0、1.6mg/lでした。下流域はA類型に適合し環境基準を達成しましたが、上流域はAA類型に適合せず環境基準を達成しませんでした。過去5ヶ年の年75%値平均値(1.2、1.1mg/l)と比べると、全流域で高い値でした。

図 1 - 8 松江市内河川の環境基準点および BOD の経年変化



ケ 出雲市内河川：平田船川、湯谷川

平田船川上流、平田船川下流、湯谷川上流、湯谷川下流をA類型に指定し、平成7年度から環境基準監視を実施しています。

平成10年度以降のBOD環境基準の達成状況を見ると、平田船川では平成11年度以降継続して達成し、湯谷川では上流域では継続して達成し、下流域でも12年度以降は達成しています。(図1-9)

平田船川、湯谷川は斐伊川水系の河川で、湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼である宍道湖流域に当たることから、湖沼水質保全計画に基づき対策を進めています。

また、県は下水道処理区を除く各河川流域を平成5年6月に生活排水対策重点地域に指定し、出雲市では生活排水対策推進計画に基づき、普及啓発事業等各種施策を進めています。

() 平田船川

上流域の西谷水門、下流域の旭町付近におけるBOD75%値はそれぞれ1.2、2.0mg/lで、2地点ともA類型に適合し、環境基準を達成しました。過去5ヶ年の年75%値平均値(1.4、1.5mg/l)と比べると、上流域は低い値でしたが、下流域は高い値でした(図9、表3-1、表4-1)。

() 湯谷川

上流域の旅伏駅水門、下流域の東橋におけるBOD75%値はそれぞれ1.2、1.4mg/lで2地点ともA類型に適合し、環境基準を達成しました。過去5ヶ年の年75%値平均値(1.1、1.4mg/l)と比べると、下流域では同じ値でしたが、上流域では高い値でした(図9、表3-1、表4-1)。

図1 - 9 出雲市内河川の環境基準点およびBODの経年変化

